「日本ユネスコエコパークネットワーク 2022総会・大会」

只見BRの「観察の森」

各BR担当者らが情報・意見を交換

綾町を含め国内に10地域あるユネスコエコパーク（BR）は、日本ユネスコエコパークネットワーク（通称JBRN）という組織を作っており、毎年、総会を開催しています。今年は7月26日にJBRN事務局である福島県の只見ユネスコエコパークで総会と大会が開かれ、綾ユネスコエコパーク推進室も参加してきました。感染症拡大の影響を受け、現地開催は3年ぶりでした。

会場には、国内7地域のユネスコエコパークの担当者と、日本ユネスコ国内委員会事務局（文部科学省）の担当官、日本MAB計画支援委員会の代表など約20人が集まり、事業報告や今後の事業計画、（公財）イオン環境財団との連携協定の継続についての協議が行われました。

情報・意見交換会では、各ユネスコエコパークの概要説明が行われ、綾町もこの10年の取り組みなどを紹介。そのほか、エコパークガイドの養成方法や、ロゴマークを使った商品のブランド化などについて意見を出し合いました。

博物館を中心に調査が進む只見BR

翌日は、只見ユネスコエコパークの現地視察に参加しました。只見町は福島県の西端で新潟県との県境に位置しており、標高1千メートル級の山々に囲まれた山間地域です。冬には日本海の湿った風による雪が大量に降り、積雪が3～4メートルにもなる国内有数の豪雪地帯でもあります。人口は多くないものの、ユネスコエコパークの面積が7万8千ヘクタールと綾BRの5倍以上もあり、ブナの森を中心とした豊かな自然が残されています。

只見BRは、博物館である「ブナセンター」を中心として自然環境や社会文化の基礎調査を進めるとともに町独自の野生動植物を保護する条例を制定したり、地域活性化と伝統文化の継承を目的に伝承産品のブランド化を進めたりしています。

視察では、移住者がJ-GAP（農業生産工程管理）認証を取得し米の生産から蒸留までを一貫して行ってつくる米焼酎や、輸出免許の国内第1号を取得した日本酒を製造・販売する現場を見学することができました。また、地元の集落と共同で整備・管理されているというブナの森に足を運んでみると、小・中学校の学習の場として利用されていました。

綾BRでも参考になる取り組みがたくさんありそうです。

只見町ブナセンター（博物館）

JBRN総会・大会の様子

只見町の日本一小さな蒸留所

只見町の伝承産品

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター
☎77-3482　URL https://ayabrcenter.jp
※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
感染症の影響による休館などの情報はホームページで随時更新します

column

ハラビロトンボ

名前のとおり、体が扁平で腹部が幅広い形をしたトンボ。春から秋にかけて田んぼや湿地などで見ることができます。

体は3～4㎝と小さいものの、ずんぐりした体型のため草に止まっている姿がよく目にとまります。オスは黒っぽい藍色の体で、メスは黄色に黒い模様が入った鮮やかな色をしています＝写真＝。ハラビロトンボの仲間で、オスが真っ赤な色になるオオハラビロトンボという稀少な種類も、町内で確認されています。

ずんぐりお腹のかわいらしいトンボ。水辺に行くことがあったらぜひ探してみてくださいね。

自然探検学習

綾小学校4年生の「総合的な学習」では、地元の植物・動物・水についてテーマを設定し、自然を探求する学習が行われています。

7月14日には72人が綾神社に集まり、野首谷遊歩道を歩きながら、植物や昆虫などを観察しました。ユネスコエコパーク推進室職員や南九州大学の先生などが観察の補助を行いました。子どもたちはワークシートとタブレットを手に、メモや写真などを真剣にとっていました。